

<日経平均>

年代	1934	1944	1954	1964	1974	1984	1994	2004
上昇						◎	○	○
下落	○		○	○	○			
特徴	恐慌後の 戻り高値を 3月に達成 後つるべ 落とし。ナ チスドイツ 政権奪取。	取引所統 合で実質 的な取引 なし。戦 争敗色 濃厚。	3月まで急 落後、9月 まで戻す がその後 再び下落。	4月まで下 落後は7 月まで戻 すものの、 その後は 証券不況 に突入。	6月まで上 昇したもの の、その後 は石油危 機、献金問 題で大幅 安。	5月まで急 上昇後は 海外要因 で7月まで 下落。その 後は圧倒 的上昇へ。	年初安値 で6月ま で大幅上 昇後、下 落。年末に はほぼ全 値を消す。	03年安値 から4月 までは順 調に上昇 するもの の、その 後は10 月まで低 迷。

「4」の年は本来ギャン理論的には弱い年とされる。

実際通算でも負け越しではある（3勝4敗）。しかし、過去の日本株、特にここ30年である1984、1994、2004は上昇している。82年の大底からバブル突入に向けた80年代を例外としても、下落傾向の強かった90年代、00年代に上昇しているのは大きい。

90年代では92年8月からの立ち直り局面であったし、00年代は03年の大底からの戻り局面であった。ある意味、90年代、00年代が強いというよりも10年サイクル本来のボトムである「0」の年に底打ち出来ず、「2」または「3」の年まで下落が延長してしまっただけの影響とみなすべきであろう。

そうなると、「4」の年が強いというよりも、10年サイクル級のボトムが1～2年前に発生したため、上昇圧力が掛かったとみなすのが正しい。その意味では歴史的にはほぼ50%の確率だが、中身は10年サイクル級ボトムがどこにあったのか、が重要である。

その意味では92年、03年、12年はそれなりに大きな、少なくとも3～5年級のボトムと見るのが妥当であり、本年も上昇の可能性は決して低くないと考えられる。

「4」の年のパターンは

① 年初から上昇、6～8月高値、その後急落して値を消すか、レンジ相場となり年末に再び上昇。

② 1月から急落、4月前後に安値、7月前後まで戻しその後また下がる。

のいずれかであろう。

確率的には①のケースが圧倒的に多く、また歴史的安値が1～3年以内にあることから①のケースをメインシナリオとしてきたが、実際には②のケースが示現しつつある。

<1>

Max金融Reportは、執筆担当者独自の視点から金融商品进行分析し、情報提供を目的に作成されております。投資の最終判断は御自身の責任で行なうようお願い申し上げます。また、予告なしに内容を変更する場合がありますのでご了解ください。お問い合わせは、マックスバリュー 047-300-5561 千葉県市川市曾谷 5-28-3 (<http://www.max-value.co.jp>) まで

長期サイクル

<安値から安値のサイクル>

安値から安値のサイクルは約 8~9 年、さらにそのサイクルを二分（ハーフサイクル）する 4 年前後、または三分する 3 年サイクルがある。

安値～安値 8 年サイクルを付けた時間（ ）内は 4 年ハーフサイクルボトム

- ① 1950 年 7 月～1957 年 12 月：7 年 5 ヶ月（1954 年 3 月）
- ② 1957 年 12 月～1965 年 7 月：7 年 7 ヶ月（1961 年 12 月）
- ③ 1965 年 7 月～1974 年 10 月：9 年 3 ヶ月（1970 年 5 月）
- ④ 1974 年 10 月～1982 年 10 月：8 年（1977 年 11 月）
- ⑤ 1982 年 10 月～1990 年 10 月：8 年（1986 年 10 月）
- ⑥ 1990 年 10 月～1998 年 10 月：8 年（1995 年 7 月）
- ⑦ 1998 年 10 月～2008 年 10 月：9 年 6 ヶ月（2003 年 4 月）
- ⑧ 2008 年 10 月～2018 年 10 月？（2012 年 10 月?）

2013 年年末において 2008 年のサイクルボトムが更新されていないので、少なくとも 4 年級、かなりの可能性で 8 年級のサイクルボトムであったと想定される。

さらに 60 年、18 年サイクルが同時にサイクルボトムをつけた可能性が高い。これが正しいとすると、非常に強力な 3~4 年サイクルのボトムが 2012 年 10 月であったと推定される。

これで興味深いことは、一例を除いて、2008 年という重要なボトムから 4~5 年経過後に起こっている。すなわち、ボトムは 2012 年 10 月から 2013 年 8 月に起こるはずであった。2012 年 6 月の安値はその意味では少し前倒しされすぎているが、6~10 月が広義でトリプルボトムであるとみなせば、すでに歴史的なボトムは形成されたとみなすべきであろう。

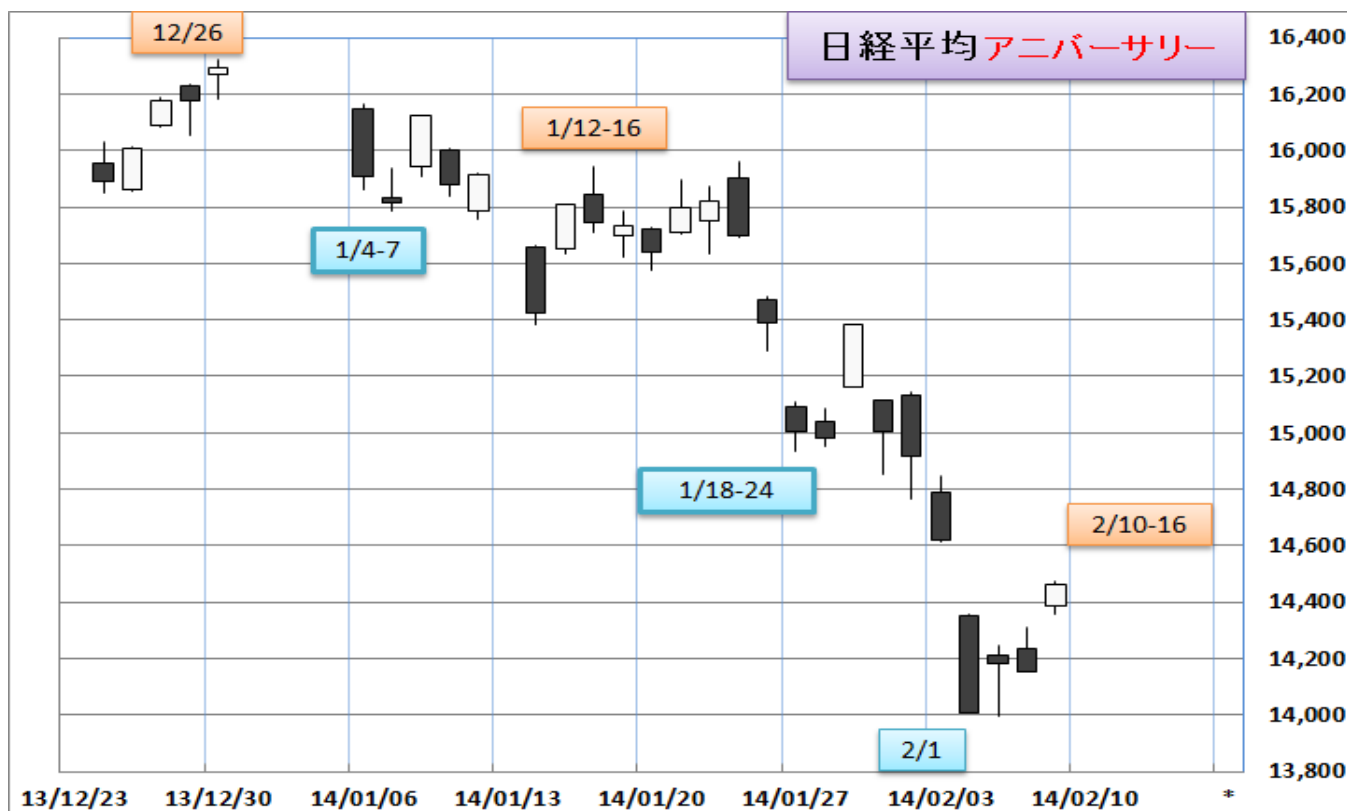
現在、2012 年 6~10 月をボトムとして 3 年あるいは 6 年サイクルの上昇期に入っているが、08 年 10 月からの上昇は 10 年 4 月完了と非常に短い上昇に過ぎなかった。

もし、同じ 16 ヶ月上昇であれば、2013 年 12 月~2014 年 4 月に上昇が終わってしまう。一応、最悪シナリオとしては想定しておく必要があるだろう。

<2>

アニバーサリー

日経平均	は2013年に強力だったアニバーサリー ◎は歴史的アニバーサリーで重要な時間帯		
◎ 1月4-7日		1月12-16日	◎ 1月18-24日
2月1日	2月10-16日	◎ 2月26-29日	
◎ 3月5-11日	3月21日	◎ 3月27-30日	
◎ 4月2-11日	4月16-17日	4月21日	4月26-28日
5月2-7日	◎ 5月17日	◎ 5月22-23日	5月26-28日
◎ 6月1-2日	◎ 6月4-6日	◎ 6月12-17日	6月29日
◎ 7月4-9日	7月13-14日	◎ 7月16-18日	7月25日
8月8日	8月17日	8月20-22日	◎ 8月28-31日
◎ 9月1日	9月3-8日	◎ 9月18-21日	9月28-29日
◎ 10月4-11日	10月20-28日		
11月2-8日	◎ 11月13-19日	◎ 11月21-22日	◎ 11月25-27日
12月1-7日	12月10-16日	12月26日	



大納会高値は 1989 年以來となるが非常に不吉ではある。このまま反転しないとなると、もっとも可能性が高いのは 3~4 月でのボトムアウトであるが、早ければ 2 月末のアニバーサリーにも注目したい。逆に言えば 2 月末、3 月頭までは強いアニバーサリーが無い。

<3>

プライマリーサイクル

48 週サイクルは3つのプライマリーサイクルからなり、48 週サイクルは6月13日に53週で通常の長さで完了、現在新PCかつ新48週サイクルに突入している、とみなす。プライマリーサイクルは通常3つのMCか2つのHPCからなり、その長さは6週±3週または8週±4週である。

2月第1週現在、第二ハーフ48週サイクルの14週目である。

ハーフ48週サイクルは24週サイクルだが、その24週サイクルは3つの8週サイクルか二つの12週サイクルになる可能性が高い。第一位相は2つの12週サイクルだったので、オルターネーションが起これば、3つの8週サイクル、同じであれば2つの12週サイクルとなる。

8週サイクルは7~9週前後であり、もし3つの8週サイクルであれば12月16日の安値が6週目、その後8週を経過しているのでそろそろボトムである。

一方、2つの12週サイクルであっても、1月最終週±2週がターゲットであるからそろそろボトムの時間帯となる。

但し、いずれの場合も3位相の二つ目あるいは2位相の一つ目のボトムに過ぎず、最終的には48週サイクルボトムの想定時間帯までは下がる、ということである。

48週サイクルボトムの想定時間帯は5月第2週±8週。すなわち最短で3月最終週、最長で6月中旬まで重要な安値はつけない、ということになる。

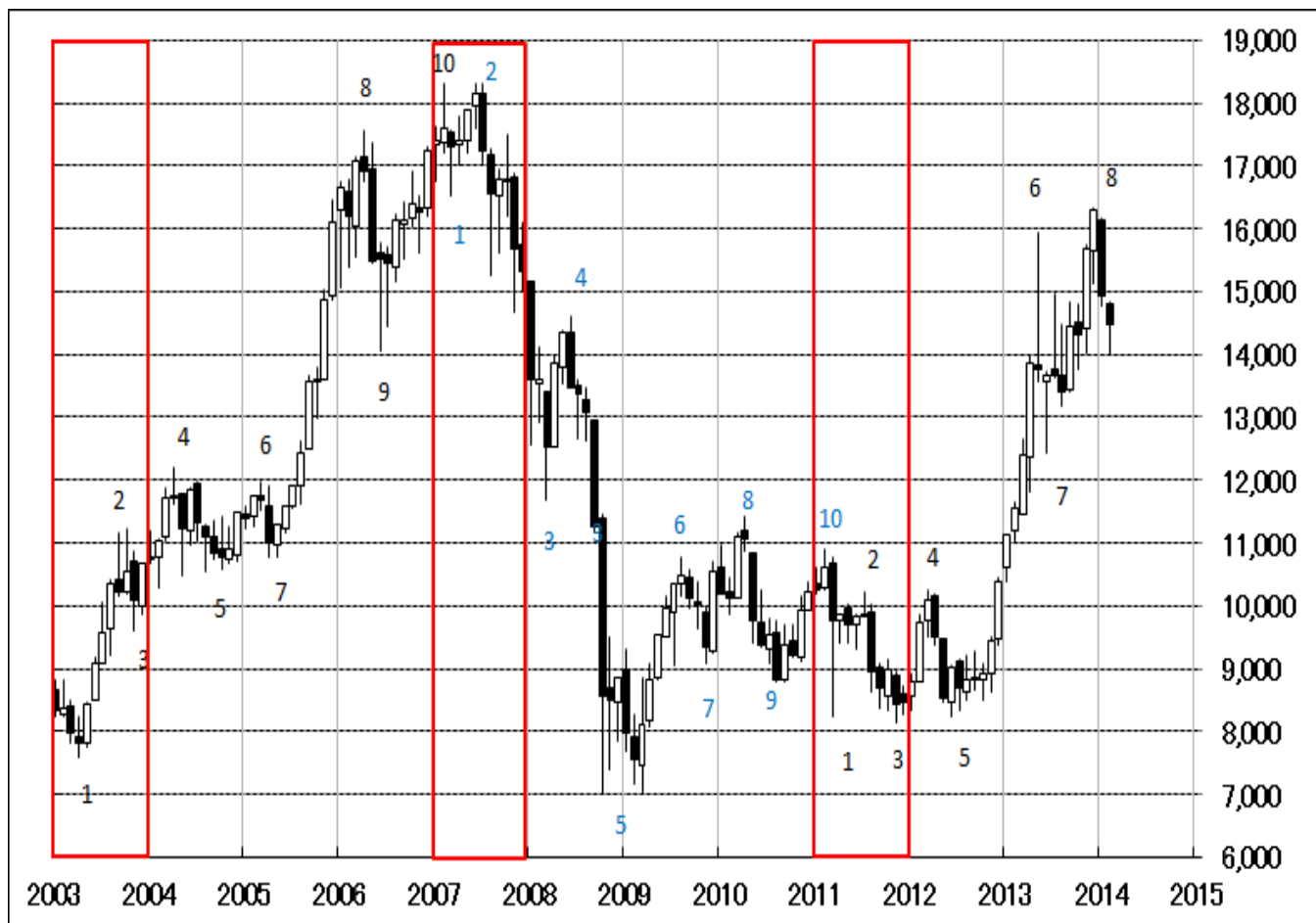
<4>

「4」の年のパターン、4月前後安値とも合致する。その意味では2月中旬に想定される戻りは時間的にも価格的にも短いと見たほうがいだろう。

13/06/10	13,141.85	13,584.31	12,415.85	12,686.52	↓	30	↓	10		
13/06/17	12,584.37	13,330.35	12,549.82	13,230.13	PC	1	第一HPC	1	第一八ーフ48	1
13/06/24	13,417.54	13,724.44	12,758.22	13,677.32	↓	2	↓	2	↓	2
13/07/01	13,746.72	14,309.97	13,562.70	14,309.97	↓	3	↓	3	↓	3
13/07/08	14,491.07	14,574.17	14,109.34	14,506.25	↓	4	↓	4	↓	4
13/07/15	14,594.88	14,953.29	14,413.28	14,589.91	↓	5	↓	5	↓	5
13/07/22	14,770.02	14,820.18	14,114.52	14,129.98	↓	6	↓	6	↓	6
13/07/29	13,899.27	14,466.16	13,613.78	14,466.16	↓	7	↓	7	↓	7
13/08/05	14,318.21	14,401.06	13,527.81	13,615.19	↓	8	↓	8	↓	8
13/08/12	13,469.70	14,050.16	13,430.64	13,650.11	↓	9	↓	9	↓	9
13/08/19	13,669.74	13,774.66	13,238.73	13,660.55	↓	10	↓	10	↓	10
13/08/26	13,719.56	13,741.49	13,188.14	13,388.86	↓	11	↓	11	↓	11
13/09/02	13,438.07	14,156.50	13,407.53	13,860.81	↓	12	第二MC	1	↓	12
13/09/09	14,141.67	14,561.46	14,117.68	14,404.67	↓	13	↓	2	↓	13
13/09/16	14,456.99	14,816.65	14,311.67	14,742.42	↓	14	↓	3	↓	14
13/09/23	14,626.04	14,817.50	14,410.52	14,760.07	↓	15	↓	4	↓	15
13/09/30	14,530.62	14,642.97	13,944.27	14,024.31	↓	16	↓	5	↓	16
13/10/07	14,057.79	14,447.87	13,748.94	14,404.74	↓	17	↓	6	↓	17
13/10/14	14,510.27	14,664.22	14,415.76	14,561.54	↓	18	第三MC	1	↓	18
13/10/21	14,624.03	14,799.28	14,088.19	14,088.19	↓	19	↓	2	↓	19
13/10/28	14,261.65	14,526.88	14,126.41	14,201.57	↓	20	↓	3	↓	20
13/11/04	14,319.75	14,407.69	14,026.17	14,086.80	↓	21	↓	4	↓	21
13/11/11	14,271.48	15,203.11	14,208.13	15,165.92	PC	1	第一MC	1	第二八ーフ48	1
13/11/18	15,253.24	15,579.39	15,020.33	15,381.72	↓	2	↓	2	↓	2
13/11/25	15,504.78	15,729.09	15,414.52	15,661.87	↓	3	↓	3	↓	3
14/12/02	15,659.74	15,794.15	15,112.54	15,299.86	↓	4	↓	4	↓	4
13/12/09	15,556.60	15,650.21	15,251.45	15,403.11	↓	5	↓	5	↓	5
13/12/16	15,408.35	15,891.82	15,146.13	15,870.42	↓	6	↓	6	↓	6
13/12/23	15,955.90	16,232.69	15,849.00	16,178.94	↓	7	第二MC	1	↓	7
14/12/30	16,269.22	16,320.22	16,182.71	16,291.31	↓	8	↓	2	↓	8
14/01/06	16,147.54	16,164.01	15,754.70	15,912.06	↓	9	↓	3	↓	9
14/01/13	15,657.20	15,941.08	15,383.69	15,734.46	↓	10	↓	4	↓	10
14/01/20	15,724.14	15,958.58	15,288.32	15,391.56	↓	11	↓	5	↓	11
14/01/27	15,091.45	15,383.91	14,764.57	14,914.53	↓	12	↓	6	↓	12
14/02/03	14,788.56	14,846.93	13,995.86	14,462.41	↓	13	↓	7	↓	13
14/02/10					↓	14	第三MC	1	↓	14
Date	Open	High	Low	Close						
日経平均	PC: 16(13~19)週 MC: 6週前後									

<5>

Max金融Reportは、執筆担当者独自の視点から金融商品进行分析し、情報提供を目的に作成されております。投資の最終判断は御自身の責任で行なうようお願い申し上げます。また、予告なしに内容を変更する場合がありますのでご確認ください。お問い合わせは、マックスバリュー 047-300-5561 千葉県市川市曾谷 5-28-3 (<http://www.max-value.co.jp>) まで

日経平均長期シンセティックス

ポイント⑥は 6 月±2 カ月であった。5 月 22 日はポイント⑥高値の条件を満たしているといえるだろう。

ポイント⑦安値は 6～11 月とターゲットとなる時間帯が幅広い。ただし、「ピークアウトした月の 1～3 ヶ月以内にボトムアウトする習性があるので、6～8 月のいずれか、端的に言えば 7 月±1 ヶ月でボトムアウトすると想定される」としたが、ほぼ最短の 6 月に完了した。

現在、非常に強いポイント⑧への上昇するはずであるが、どうやら 2010 年パターンを踏襲しているようだ。2010 年は 1 月に急落を開始し、2 月にボトムアウト、3 月に高値を取り直し、そこからは下げた。

3 月の上昇力が弱ければ新高値は厳しいかもしれないが、シンセティックス上は 2 月に反転する可能性が高い点は注意したい。

ポイント⑧の想定時間は 2014 年 4 月前後。「4」の年の習性、3 年サイクルの上昇期間ともに 2014 年 4 月前後を一つのターゲットとしている。

〈6〉

結論

「4」の年の波動習性のサブシナリオが示現しつつある。

すなわち、1月から急落を開始、短い戻りを見せた後4~5月にボトムアウト、再び7月まで上昇するが最終的には下落する、というパターンである。

また、48週サイクルもそのシナリオを支持しており、短い戻りを3月に見せた後急落し、5月2週をターゲットとしてボトムアウトする。

シンセティックスは、ポイント⑧への上昇局面であるが、2010年パターンを踏襲するならば2月までは急落、3月から上昇し2014年4月前後に重要なトップをつけ急落を開始、ポイント⑨安値の想定時間は6~9月である。

残念ながらその後の戻りは弱いであろう。2015年春以降に予定される3年サイクルボトムに向けて下降する可能性が高いからである。

ハーフ24週サブサイクルである12週、あるいは8週サイクルがボトムアウトする時間帯なのでいったんは上昇に向かう可能性があるが、12週であれば48週サイクルの最後の位相の上昇、8週サイクルでも第三位相なので、上昇はあっても6週、より妥当には3~4週程度であろう。

最大で4月上旬、短ければ3月中にも反転下落に向かうと想定されるので、この急落の買い向かいは慎重に。

より大きくは4月頭までの高値を叩いてその後の下落に備えることであろう。

<7>

<ドル円>

長期サイクル

①17年サイクル

ドル円相場においては17年サイクル仮説(あるいは16-18年)が有効である。17年サイクルは1970年代以降、都合3回観察された。1960年前後(おそらくはドルの歴史的ピーク)から1978年にわたる第一円高サイクル、1978年から1995年に及ぶ第二円高サイクル、そして1995年から2011年10月(あるいは2011/3~2012/9にわたるトリプルボトム)の第三円高サイクルである。

戦前から戦後にかけておおよそ100年にわたりドルは上昇してきたが、60年代末からは一転して三度にわたる長期円高サイクルを展開してきた。超長期にドル高としても100年上昇に対して50年の下落は調整としてもおかしくはない。そして、戦後の円高17年サイクルはいまだドル高に転換していない。

すなわち、戦後の第一18年サイクルのピーク363円、ボトム178円、第二18年サイクルのピーク223円、ボトム79円。第三円高サイクルは1995年にボトムアウトし、そのサイクルのピークは147円、ボトムは75円であった。全てのサイクルトップとサイクルボトムが切り下がっていることがわかる。



<8>

17年サイクルはおおよそ3つの5年サイクル(あるいは2つの8-9年サイクル)からなっているが、70年代以降は全て3つの5年サイクルで形成されている。3つの5年サイクルはその最終サイクル(第三年サイクル)において歪む。

たとえば、1995年に完了した5年サイクルの長さは1988年11月から1995年4月まで述べ7年に及んでいる。第三円高サイクルにおいても17年サイクルにおける5年サイクルの3つめ、すなわち、最終の位相は激しく延長され2005年1月にスタートし2011年まで延長された。

細かく見ると、第三円高17年サイクルの第一5年サイクルは1999年11月にほぼ5年(1995年4月—1999年11月)で完了した。第二5年サイクルは2005年1月の101円で完了した。第三5年サイクルの高値は2007年6月であった。2012年1月は84ヶ月目(ボトムの翌月を1ヶ月目とカウント)である。もし2011年10月が5年サイクルの終了とすると、81ヶ月目であったことになる。

2012年～2013年にわたり2011年の安値が割り込まなかったので、2011年10月が17年サイクルのボトムであり、すでに新5年サイクルの上昇に突入しているとみなす。

新17年サイクルの新5年サイクルはその大部分、少なくとも3年程度は上昇に費やすはずである。

<価格・時間ターゲット>

この17年サイクルの最初の5年サイクルのターゲットは

1978/10-1982/11 上昇率 157.30% 上昇期間 4年1ヶ月

1995/04-1998/08 上昇率 185.15% 上昇期間 3年3ヶ月

以上から類推すれば

上昇期間 3年3ヶ月～4年1ヶ月

上昇率 157%～185%

となり、具体的に2011年10月をボトムとすれば;

ドル高のピーク時期 2015年1月～11月

価格ターゲット 119.15～140.25円

とすることが出来るだろう。重要なのは2014年中にドルが長期的にピークアウトする可能性は依然低いということである。

②5.5年サイクル

完全に確認できるドル円相場の5年サイクルは過去5回観察された。この5回のサイクルを見ると、すべての第三22ヶ月サイクルは弱気である(セオリー通り)。なお、5年サイクル自体は73—78年弱気、78—84年強気、84—88年超弱気、88—95年弱気と来て95—2000年強気、2000—2005年弱気、2005年～超弱気となっている。

5.5年サイクルのターゲットは2010年7月(±10ヶ月)だったので、本来2011年6月には完了するはずであった。しかし、長期サイクルの影響で円高は延長されており、17年サイクルの最終サイクルとして歪んだ。また、この歪みそのものが超長期サイクル完了の可能性を示唆している。現時点では、75円を割り込まない限り、すでに新5.5年サイクルに突入しており、2014年はその3年目である。

③33ヶ月サイクルまたは22ヶ月サイクル

17年サイクルの第三位相としての5年サイクルをさらに分析する。

5年サイクルは2つの33ヶ月サイクルか3つの22ヶ月サイクルからなる。

<33ヶ月サイクル>

- 1) 第一33ヶ月サイクル 2005年1月～2008年3月 38ヶ月
- 2) 第二33ヶ月サイクル 2008年3月～2011年10月 43ヶ月
- 3) 第一33ヶ月サイクル 2011年10月～2014年7月?



<10>

新第一 33ヶ月に突入しているが、すでに第三サブサイクルである第三 11ヶ月サイクルに入っている。このサイクルは 2013 年 6 月にスタートし、通常の長さであれば 2014 年 5 月 ±2 ヶ月 (4~6 月) をターゲットとする。ただし今回のサイクルは 33 ヶ月と同時にボトムアウトするためそのターゲットは延長・短縮される可能性がある。

過去 2 回の 11ヶ月サイクルはその 5ヶ月目、8ヶ月目でピークアウトした。同様に 5~8ヶ月目でピークアウトするとすれば、遅くとも 2014 年 2 月までにピークアウトするが、どうやら 2014 年 1 月に 7ヶ月目でピークアウトした可能性が高い。また 33ヶ月サイクルのボトムのターゲットは 2014 年 7 月 ±6 ヶ月 (2014 年 1 月 ~ 2015 年 1 月) と幅広い。コアの時間帯は 2014 年 3 月 ~ 2014 年 7 月である。いったんピークアウトすれば、33ヶ月サイクルボトムまで下落が続くであろう。

<22ヶ月サイクル>

- | | | |
|-----------------|--------------------------------------|------|
| 1) 第一 22ヶ月サイクル | 2005 年 1 月 ~ 2006 年 5 月 | 16ヶ月 |
| 2) 第二 22ヶ月サイクル | 2006 年 5 月 ~ 2008 年 3 月 | 22ヶ月 |
| 3) 第三 22ヶ月サイクル | 2008 年 3 月 ~ 2009 年 11 月 | 20ヶ月 |
| 4) 第四 22ヶ月サイクル | 2009 年 11 月 ~ 2011 年 10 月 | 23ヶ月 |
| 5) 新第一 22ヶ月サイクル | 2011 年 10 月 ~ 2013 年 6 月 | 20ヶ月 |
| 6) 新第二 22ヶ月サイクル | 2013 年 6 月 ~ 2015 年 4 月 (2015/1~8月)? | |

異例であるが、4つの 22ヶ月サイクルとすると、新第二 22ヶ月サイクルの 8ヶ月目 (2014 年 2 月) である。過去弱気の 17 年サイクルとしても、第一、第二 22ヶ月はおおよそ 11~13ヶ月は上昇したので、そのパターンを今回に当てはめると 2014 年 5 月 ~ 7 月までは上昇の可能性が残っている。



<11>

Date	Open	High	Low	Close						
2015/01										
2014/12					18	↑	38	↑	38	↑
2014/11					17	↑	37	↑	37	↑
2014/10					16	↑	36	↑	36	↑
2014/09					15	↑	35	↑	35	↑
2014/08					14	↑	34	↑	34	↑
2014/07					13	↑	33	↑	33	↑
2014/06					12	↑	32	↑	32	↑
2014/05					11	↑	31	↑	31	↑
2014/04					10	↑	30	↑	30	↑
2014/03					9	↑	29	↑	29	↑
2014/02					8	↑	28	↑	28	↑
2014/01	104.92	105.44	101.81	102.22	7	↑	27	↑	27	↑
2013/12	102.48	105.41	101.62	104.94	6	↑	26	↑	26	↑
2013/11	98.34	102.61	97.62	102.42	5	↑	25	↑	25	↑
2013/10	98.24	99.00	96.56	98.33	4	↑	24	↑	24	↑
2013/09	98.35	100.61	97.50	98.32	3	↑	23	↑	23	↑
2013/08	97.85	99.93	95.80	98.18	2	↑	22	↑	22	↑
2013/07	99.21	101.53	97.65	97.91	1	22ヶ月②	21	↑	21	↑
2013/06	100.51	100.71	93.79	99.28	20	↑	20	↑	20	↑
2013/05	97.43	103.73	97.02	100.35	19	↑	19	↑	19	↑
2013/04	94.29	99.94	92.56	97.40	18	↑	18	↑	18	↑
2013/03	92.54	96.70	92.44	94.17	17	↑	17	↑	17	↑
2013/02	91.66	94.50	90.85	92.63	16	↑	16	↑	16	↑
2013/01	86.67	91.54	86.53	91.51	15	↑	15	↑	15	↑
2012/12	82.38	86.63	81.72	86.03	14	↑	14	↑	14	↑
2012/11	79.75	82.83	79.07	82.44	13	↑	13	↑	13	↑
2012/10	77.96	80.38	77.79	79.80	12	↑	12	↑	12	↑
2012/09	78.32	79.21	77.12	78.03	11	↑	11	↑	11	↑
2012/08	78.12	79.66	77.90	78.23	10	↑	10	↑	10	↑
2012/07	79.92	80.09	77.94	78.10	9	↑	9	↑	9	↑
2012/06	78.30	80.62	77.64	79.87	8	↑	8	↑	8	↑
2012/05	79.81	80.61	78.20	78.35	7	↑	7	↑	7	↑
2012/04	82.92	83.30	79.73	79.81	6	↑	6	↑	6	↑
2012/03	81.14	84.17	80.57	82.87	5	↑	5	↑	5	↑
2012/02	76.26	81.66	76.02	81.27	4	↑	4	↑	4	↑
2012/01	76.89	78.28	76.15	76.23	3	↑	3	↑	3	↑
2011/12	77.61	78.22	76.90	76.94	2	↑	2	↑	2	↑
2011/11	78.16	78.97	76.57	77.53	1	22ヶ月①	1	33ヶ月①	1	第1位相(5年サイクル)
2011/10	77.12	79.53	75.57	78.17	23	↑	43	↑	81	↑

<現時点での長期サイクルの結論>

- 1) 17年サイクルの最後の5.5年サイクルが完了し、新17年サイクルに突入している。
- 2) 5.5年サイクルはその4年目にはいる。
- 3) 33ヶ月の27ヶ月目である。そのサブサイクルである第三11ヶ月サイクルもすでに重要なトップをつけたか、つける寸前である。この場合、33ヶ月サイクルボトムの見込時間である3月までは下落を継続するであろう。
- 4) 一方、22ヶ月が支配的とみれば、第二22ヶ月は2013年6月にスタートしたばかりであり、少なくとも11ヶ月の上昇が見込める。この観点からは2014年5月までピークアウトしない可能性のほうが高い。
- 5) 17年サイクルのサブサイクルとしての5.5年が強い上昇波動を描いているため、2014年中の22ヶ月、33ヶ月サイクルのボトムはわかりにくいかもしれない。

<12>

④ プライマリーサイクル

通常 22ヶ月サイクルは 3つのプライマリーサイクル(33週、レンジ 24~40週)またはハーフ22ヶ月サイクル(11ヶ月または 48週サイクル、レンジ 40~56週)からなる。

2013年6月からのサイクルは、MC(11週前後)というよりはHPC(17週前後)からなる。

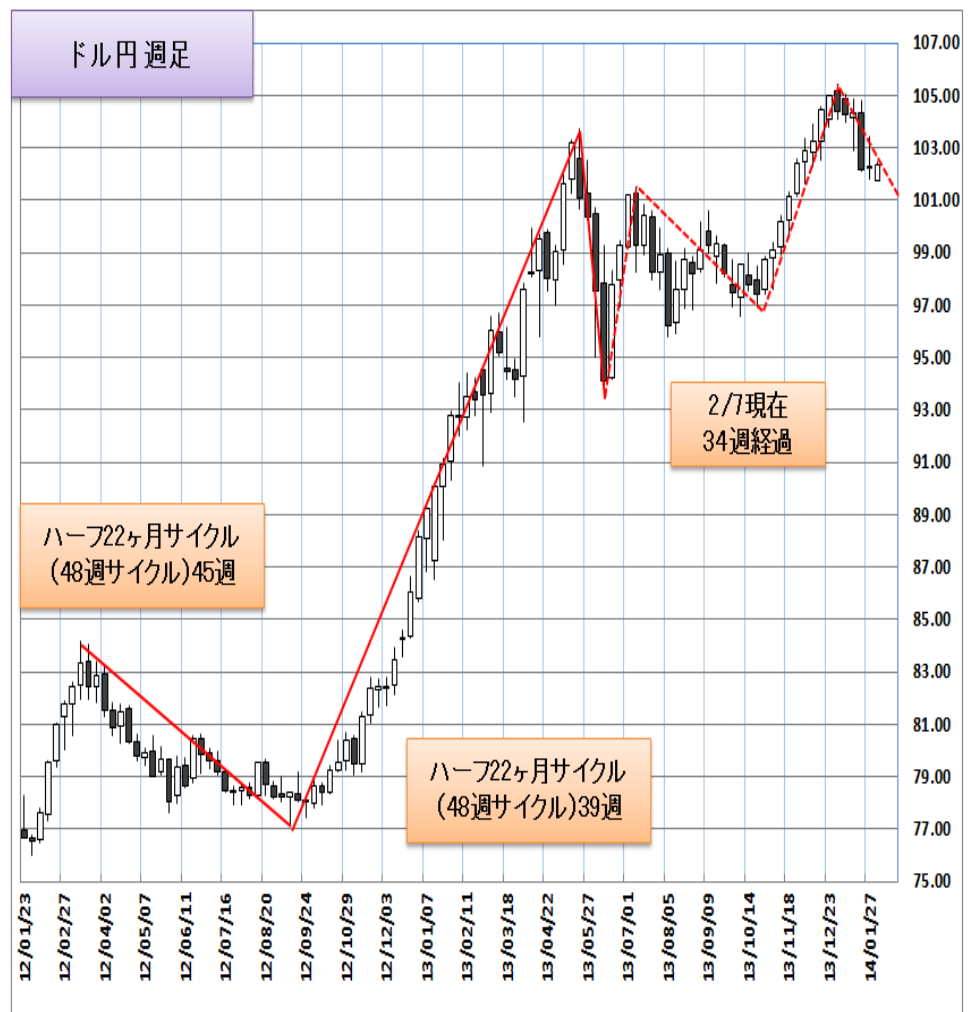
この解釈では、現在 33週PCの第二HPCの 16週目(2月第2週)。

第二HPCはすでにピークアウトし、ボトムの時間帯に突入しつつある。

第二HPCのボトム想定時間帯は 2月第3週±3週。

PC自体のボトムは遅くとも 3月第2週までに完了するはずである。

13/06/10	97.84	99.28	93.79	94.13	39
13/06/17	94.20	98.29	94.18	97.79	1
13/06/24	97.97	99.45	96.96	99.28	2
13/07/01	99.21	101.22	99.18	101.21	3
13/07/08	101.24	101.53	98.26	99.30	4
13/07/15	99.28	100.85	98.89	100.40	5
13/07/22	100.36	100.61	97.96	98.25	6
13/07/29	98.27	99.93	97.58	98.90	7
13/08/05	98.96	99.15	95.80	96.21	8
13/08/12	96.32	98.65	95.93	97.59	9
13/08/19	97.61	99.14	96.90	98.71	10
13/08/26	98.62	98.84	96.80	98.18	11
13/09/02	98.35	100.21	98.27	99.08	12
13/09/09	99.80	100.61	99.00	99.29	13
13/09/16	98.84	99.66	97.84	99.35	14
13/09/23	99.26	99.35	98.09	98.22	15
13/09/30	97.79	98.72	96.92	97.45	16
13/10/07	97.27	98.57	96.56	98.54	17
13/10/14	98.15	99.00	97.55	97.80	18
13/10/21	97.94	98.47	96.94	97.40	19
13/10/28	97.60	98.85	97.44	98.75	20
13/11/04	98.79	99.41	97.62	99.09	21
13/11/11	99.20	100.43	98.92	100.20	22
13/11/18	100.26	101.35	99.57	101.13	23
13/11/25	101.28	102.61	101.14	102.42	24
13/12/02	102.48	103.37	101.62	102.89	25
13/12/09	102.85	103.92	102.28	103.22	26
13/12/16	103.22	104.60	102.55	104.43	27
13/12/23	104.09	105.00	103.80	104.97	28
14/12/30	105.17	105.44	104.08	104.40	29
14/01/06	104.85	105.06	103.97	104.29	30
14/01/13	104.17	104.89	102.88	104.33	31
14/01/20	104.33	104.80	102.08	102.14	32
14/01/27	102.27	103.42	101.81	102.22	33
14/02/03	101.76	102.48	101.76	102.34	34
14/02/10					35



アニバーサリー ◎・○は重要度 12月は急騰急落注意日

月	日		2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004
2月	5	◎		2	2	4				3		
	12-14				16	19	14	14	13	10	10	11
	27-28		25		28		26	26	23			

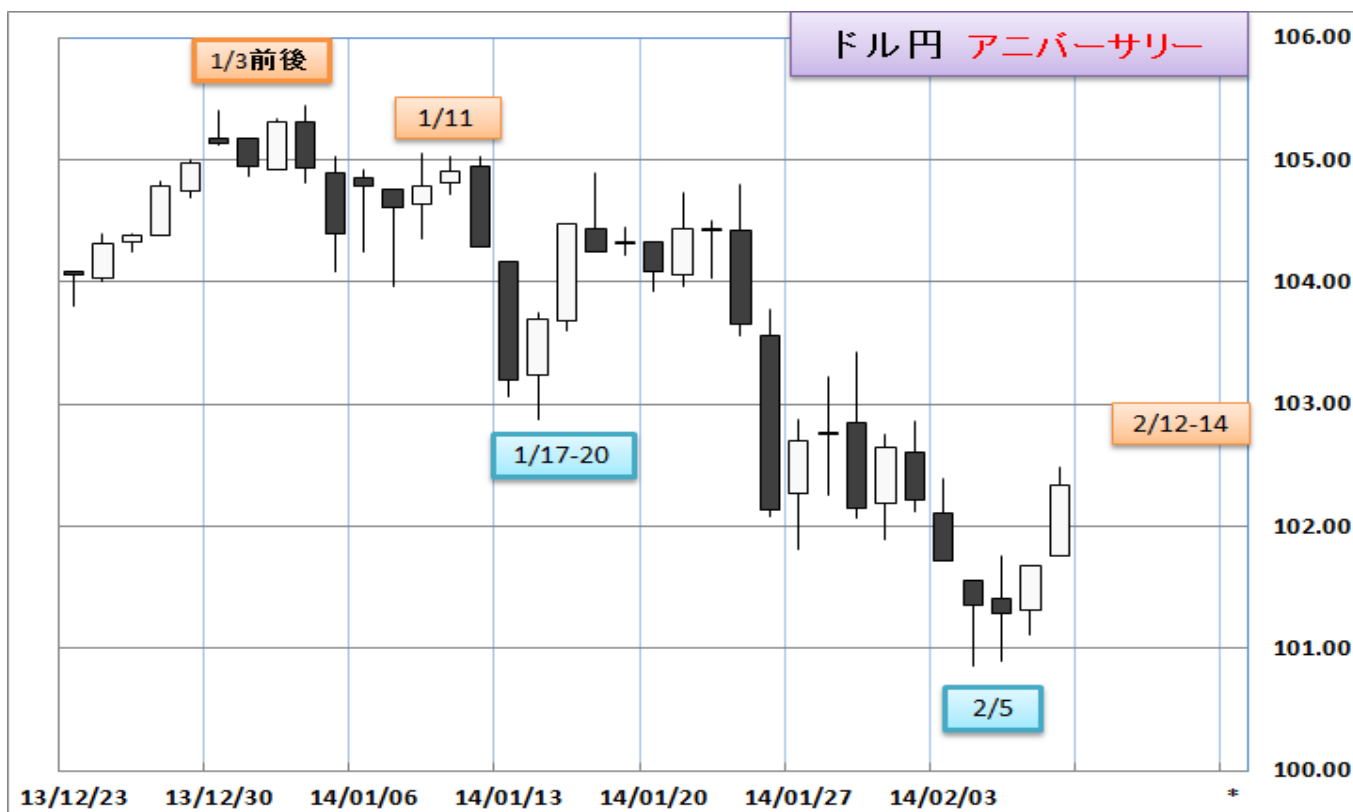
ドル円

は2013年に強力だったアニバーサリー

◎・○は重要度

◎ 1月3日前後		1月11日		○ 1月17-20日		
◎ 2月5日		2月12-14日		2月27-28日		
○ 3月8-9日	◎	3月14-17日		3月22-25日		
◎ 4月1-5日		4月10-14日		4月17-19日	○ 連休前後	
				◎ 5月20-22日	5月末	
	6月4-7日			◎ 6月21-24日	6月末	
		7月10日		○ 7月16-19日	7月末	
		◎ 8月11-16日				
○ 9月5-12日		9月21日		◎ 9月25-28日		
	10月6-8日	○ 10月18-21日		10月25-29日		
		11月19日		11月25日		11月30-12月2日
	12月2-5日					

非常に強いアニバーサリー1月2日で105円台の円安ピークを付けたので、少なくとも調整は深いはずである。1月23日の戻り、2月5日前後の安値もあるが、ここで反転出来ないと、調整は3月までずれ込む可能性がある。



シンセティック分析

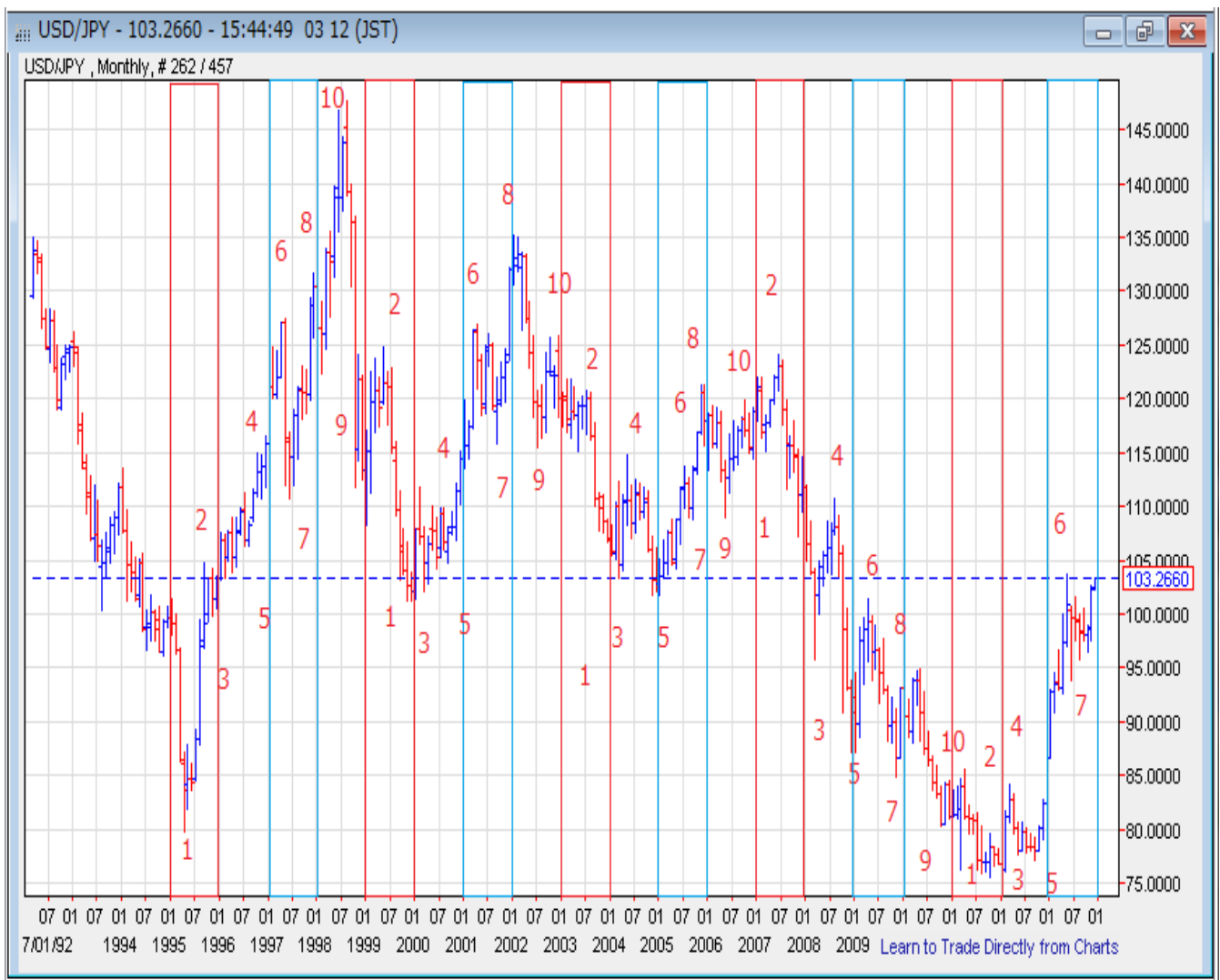
シンセティックスは 4 年サイクルと 16 年サイクル仮説から成り立っている。

この観点から見れば、マーケットは 16 年前の相場をなぞる可能性が高く、実際 2007 年、2008 年は 1991 年、1992 年を、2010 年は 1998 年、2002 年など前半のドル高相場とその後の急落をなぞった。2011 年も 2007 年、2003 年、1999 年などと同様、前半は高く後半大きく下げた。

2014 年は、4 年サイクルの天井をつける年で、13 年 12 月または 14 年 1 月でいったんピークアウト(ポイント⑩)後下落に転じる。

下落は 4 年サイクルがピークアウトしていれば 5~7 月まで続く本格調整であり、逆にピークアウトしていない場合、最終トップであるポイント⑩にむけてすばやく立ち直る(通常 1~3 ヶ月以内)。

ポイント⑩は、歴史的な高値をつけるケースでは 7~9 月であり、逆に本格調整し、安値が 6 月以降にずれ込むと年末前後となる。



結論

17年サイクルが完了し、全て新サイクルに入っている。

新5.5年サイクルは上昇局面に有り、そのピークアウトはおそらく2015年であろう。

現在5.5年サイクルの第一33ヶ月サイクルか、第二22ヶ月サイクルにある。

中期的には33ヶ月サイクルの場合、第三位相である11ヶ月サイクルがピークアウトしたものと想定される。

またシンセティックスにおいても2014年1月前後1ヶ月内にポイント⑧があり、おそらく中期的ピークアウトはこの1月であっただろう。その後ポイント⑨に向けた下落が発生し、その下落は早くて3~5月、遅ければ8月前後である。

ポイントは調整の深さであり、長く深い場合は戻り高値は年末近辺まで遅れてしまうだろう。その場合、2015年のピークは2014年のトップと並ぶ「ダブルトップ」に過ぎない可能性がある。

プライマリーサイクルは2月第2週現在、第一HPCが完了し、第二HPCの16週目である。第二HPCが通常長さを持つとしても下落は数週以内、より妥当には2月いっぱいとは想定されるため、このレベルから売り込むのは危険であろう。

ボトムは2月最終週~3月第1週をターゲットとしている。その後戻してアニバーサリーである3月第2~4週まで強い上昇を示現するか。

今年のドル戻りを狙うのは、この時間帯がベストと想定する。

<ユーロドル>

4年サイクル

ユーロ(一般に通貨)には16年サイクルが存在すると想定される。16年サイクルは4つの4年サイクルで形成され、ピークは第二、または第三4年サイクルで打つケースが多い。

2001年からスタートした16年サイクルは第二4年サイクルでピークアウトしたものと想定され、2005年11月からスタートした第二位相としての第二4年サイクルは2010年6月に終了した(4年7ヶ月)と考えられる。

現在2010年6月からスタートした第三4年サイクルの3年目である。

過去のパターンから4年サイクルを見ると、正確には4.3年サイクルである。

通常52か月で次のボトムが到来するから、2014年10月が次のボトムの中心であり、2014年5月から2015年3月までがオーブ(許容範囲)となる。

17/26ヶ月サイクル

第二4年サイクル(1989~93)の上昇は20ヶ月上昇と5ヶ月下落(計25ヶ月)と14ヶ月上昇と11ヶ月下落(計25ヶ月)の組み合わせであった。

更に細かく17/26ヶ月サイクルを見ていくと、ユーロドルの4年サイクルは26ヶ月サイクル2つか、17ヶ月サイクル3つ、あるいは17ヶ月と26ヶ月が一つずつである。

過去6回のケースのうち17ヶ月サイクル3つで形成されたのが3回、26ヶ月サイクル2つが2回、17・26混合が1回である。そのうち17・26の混合は第四4年サイクル上で観察されたのでこれは26ヶ月サイクル2つのうち、最後の26ヶ月サイクルが17年サイクルの影響で短縮されたとみなすことも出来る。

すると、おおむね17ヶ月サイクル3つで形成される可能性と26ヶ月サイクル2つで形成される可能性はほぼ半々ということが出来る。

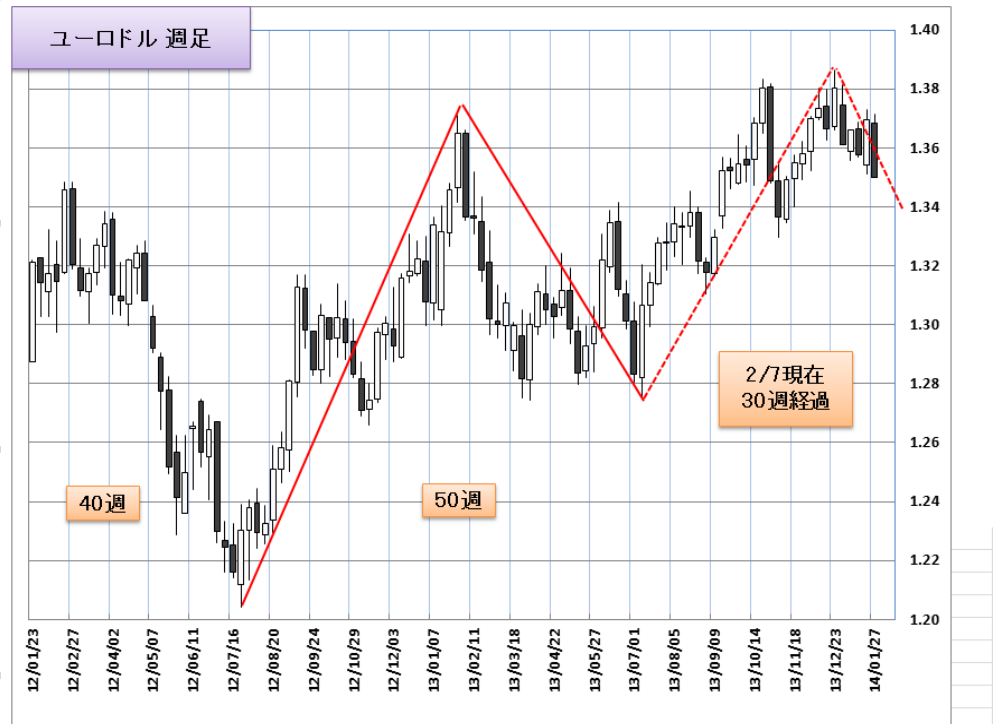
2012年7月の安値は25ヶ月目。26ヶ月サイクルのボトムであった。上昇11ヶ月、下落14ヶ月で下落がやや長い、サイクルのスタートを割り込んでいないので、以前強気型である可能性がある。いずれにせよ、26ヶ月サイクル2つか、混合パターンであることは確定である。

第二17ヶ月または26ヶ月サイクルの19ヶ月目(2014年2月)である。第二位相は判断が難しい。強気にも弱気にもなり得るからであるが、17ヶ月目で上昇していることを考えると、おそらく第二位相も26ヶ月サイクルを形成するのではないかと。26ヶ月サイクルは3つの9ヶ月サイクルか4つの6ヶ月サイクルで形成され、第一9ヶ月サイクルは2013年4月に9ヶ月でボトムアウトしたものと想定される。

現在、第二9ヶ月(または複合)サイクルの10ヶ月目で本来安値を形成する時間帯であるが、第三位相の上昇はきわめて弱いものと想定されるので、最終的には26ヶ月サイクルボトムである2014年9月±4ヶ月までは下落基調であろう。

プライマリーサイクル

13/06/10	1.3198	1.3390	1.3177	1.3346	46
13/06/17	1.3348	1.3415	1.3098	1.3119	47
13/06/24	1.3103	1.3151	1.2984	1.3011	48
13/07/01	1.3012	1.3078	1.2806	1.2831	49
13/07/08	1.2819	1.3205	1.2755	1.3067	50
13/07/15	1.3066	1.3178	1.2993	1.3142	1
13/07/22	1.3137	1.3297	1.3136	1.3276	2
13/07/29	1.3279	1.3345	1.3184	1.3281	3
13/08/05	1.3280	1.3400	1.3232	1.3342	4
13/08/12	1.3336	1.3379	1.3205	1.3336	5
13/08/19	1.3335	1.3452	1.3298	1.3379	6
13/08/26	1.3381	1.3398	1.3173	1.3216	7
13/09/02	1.3212	1.3227	1.3104	1.3177	8
13/09/09	1.3172	1.3324	1.3165	1.3295	9
13/09/16	1.3369	1.3568	1.3325	1.3522	10
13/09/23	1.3533	1.3564	1.3461	1.3522	11
13/09/30	1.3481	1.3646	1.3477	1.3546	12
13/10/07	1.3562	1.3607	1.3486	1.3543	13
13/10/14	1.3560	1.3704	1.3473	1.3684	14
13/10/21	1.3683	1.3832	1.3651	1.3803	15
13/10/28	1.3807	1.3817	1.3480	1.3489	16
13/11/04	1.3487	1.3547	1.3295	1.3365	17
13/11/11	1.3356	1.3505	1.3345	1.3492	18
13/11/18	1.3495	1.3578	1.3399	1.3549	19
13/11/25	1.3547	1.3621	1.3490	1.3580	20
13/12/02	1.3586	1.3706	1.3524	1.3700	21
13/12/09	1.3704	1.3803	1.3696	1.3733	22
13/12/16	1.3741	1.3799	1.3626	1.3663	23
13/12/23	1.3672	1.3864	1.3662	1.3801	24
14/12/30	1.3745	1.3815	1.3609	1.3609	25
14/01/06	1.3588	1.3661	1.3556	1.3661	26
14/01/13	1.3664	1.3689	1.3569	1.3576	27
14/01/20	1.3540	1.3731	1.3510	1.3695	28
14/01/27	1.3683	1.3714	1.3501	1.3501	29
14/02/03					30
14/02/10					31



3つの9ヶ月サイクルは厳密には3つの35週サイクル(オーブ6週で、29-41週)であり、4つの6ヶ月サイクルは、4つの21週サイクル(17週~25週)または6つの17週サイクル(14~21週)となる。

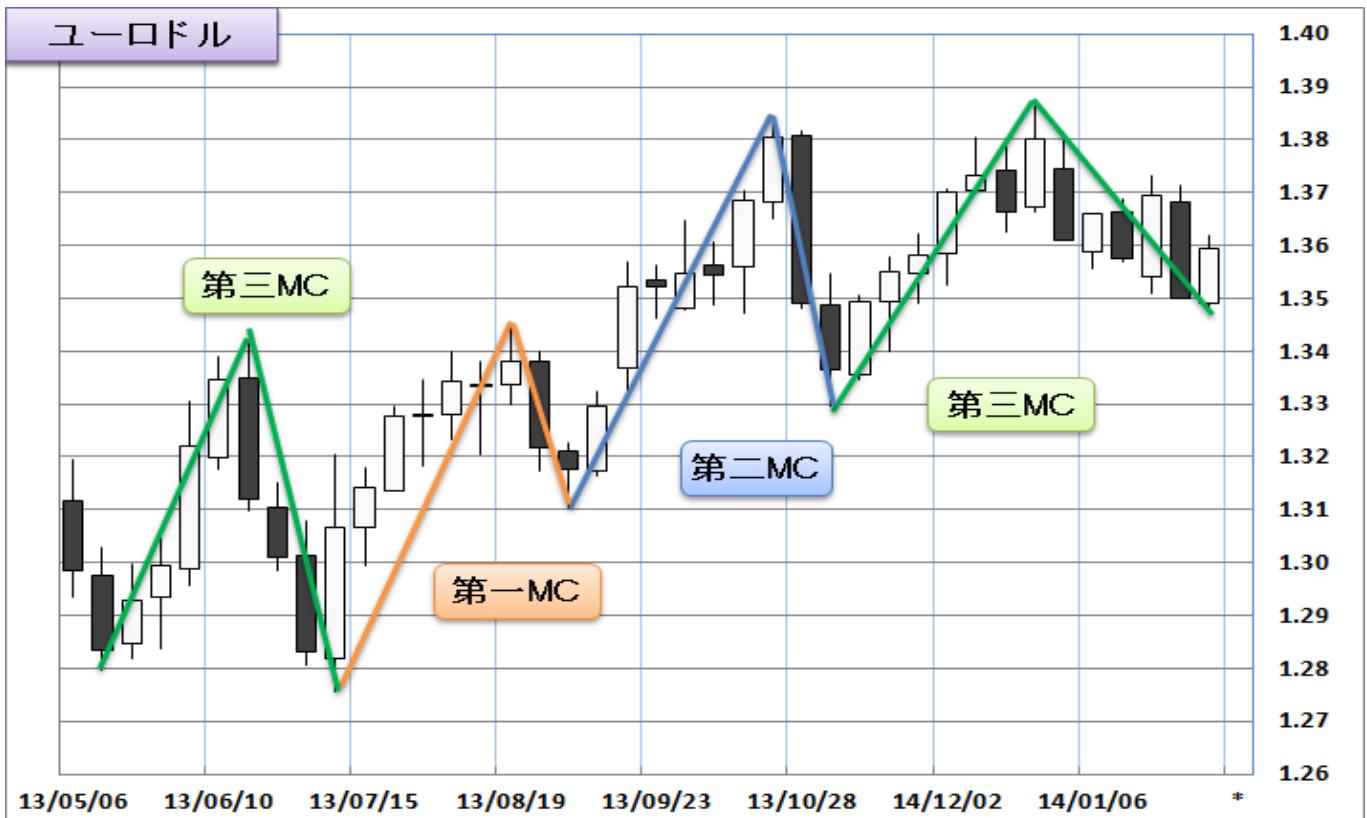
新26ヶ月サイクルも、2つの35週サイクルか、4つの21週サイクルで形成されると想定され、第一PCが16週で完了したことを考えると、35週サイクル3つあるいは複合パターンで形成される可能性が高い。

11月7日から新PCに入っている。第一PCが14週、第二PCが17週であるから1つめの35週サイクルを完了させたか、かなり短めとなるが2つの21週サイクルが完了した可能性がある。

次は第二35週サイクルか、第三21週サイクルのはずである。

第二35週サイクルは2つのPC(17週前後)で形成されるだろう。いずれにせよ、17~21週を中心とするサイクルが形成されるはずで、強気であれば10週前後またはそれ以上の上昇となり、セントラートランスが起こるとすれば10週までとなるだろう。

2月第2週現在、PCは14週目となる。セントラートランスが発生し、すでに17~21週のサイクルトップを12/27に達成したとみなす。この場合10週前後の調整となり、安値の時間的ターゲットは3月第2週±2週である。



13/05/06	13/06/10	13/07/15	13/08/19	13/09/23	13/10/28	14/12/02	14/01/06	*								
13/09/02	1.3212	1.3227	1.3104	1.3177	↓ 8	↓ 8	13/09/02	1.3212	1.3227	1.3104	1.3177	↓ 8	↓ 8			
13/09/09	1.3172	1.3324	1.3165	1.3295	↓ 9	第二MC	1	13/09/09	1.3172	1.3324	1.3165	1.3295	↓ 9	第二MC	1	
13/09/16	1.3369	1.3568	1.3325	1.3522	↓ 10	↓ 2	13/09/16	1.3369	1.3568	1.3325	1.3522	↓ 10	↓ 2			
13/09/23	1.3533	1.3564	1.3461	1.3522	↓ 11	↓ 3	13/09/23	1.3533	1.3564	1.3461	1.3522	↓ 11	↓ 3			
13/09/30	1.3481	1.3646	1.3477	1.3546	↓ 12	↓ 4	13/09/30	1.3481	1.3646	1.3477	1.3546	↓ 12	↓ 4			
13/10/07	1.3562	1.3607	1.3486	1.3543	↓ 13	↓ 5	13/10/07	1.3562	1.3607	1.3486	1.3543	↓ 13	↓ 5			
13/10/14	1.3560	1.3704	1.3473	1.3684	↓ 14	↓ 6	13/10/14	1.3560	1.3704	1.3473	1.3684	↓ 14	↓ 6			
13/10/21	1.3683	1.3832	1.3651	1.3803	↓ 15	↓ 7	13/10/21	1.3683	1.3832	1.3651	1.3803	↓ 15	↓ 7			
13/10/28	1.3807	1.3817	1.3480	1.3489	↓ 16	↓ 8	13/10/28	1.3807	1.3817	1.3480	1.3489	↓ 16	↓ 8			
13/11/04	1.3487	1.3547	1.3295	1.3365	↓ 17	↓ 9	13/11/04	1.3487	1.3547	1.3295	1.3365	↓ 17	↓ 9			
13/11/11	1.3356	1.3505	1.3345	1.3492	PC	1	第一MC	1	13/11/11	1.3356	1.3505	1.3345	1.3492	↓ 18	第三MC	1
13/11/18	1.3495	1.3578	1.3399	1.3549	↓ 2	↓ 2	13/11/18	1.3495	1.3578	1.3399	1.3549	↓ 19	↓ 2			
13/11/25	1.3547	1.3621	1.3490	1.3580	↓ 3	↓ 3	13/11/25	1.3547	1.3621	1.3490	1.3580	↓ 20	↓ 3			
14/12/02	1.3586	1.3706	1.3524	1.3700	↓ 4	↓ 4	14/12/02	1.3586	1.3706	1.3524	1.3700	↓ 21	↓ 4			
13/12/09	1.3704	1.3803	1.3696	1.3733	↓ 5	↓ 5	13/12/09	1.3704	1.3803	1.3696	1.3733	↓ 22	↓ 5			
13/12/16	1.3741	1.3799	1.3626	1.3663	↓ 6	↓ 6	13/12/16	1.3741	1.3799	1.3626	1.3663	↓ 23	↓ 6			
13/12/23	1.3672	1.3864	1.3662	1.3801	↓ 7	↓ 7	13/12/23	1.3672	1.3864	1.3662	1.3801	↓ 24	↓ 7			
14/12/30	1.3745	1.3815	1.3609	1.3609	↓ 8	↓ 8	14/12/30	1.3745	1.3815	1.3609	1.3609	↓ 25	↓ 8			
14/01/06	1.3588	1.3661	1.3556	1.3661	↓ 9	↓ 9	14/01/06	1.3588	1.3661	1.3556	1.3661	↓ 26	↓ 9			
14/01/13	1.3664	1.3689	1.3569	1.3576	↓ 10	↓ 10	14/01/13	1.3664	1.3689	1.3569	1.3576	↓ 27	↓ 10			
14/01/20	1.3540	1.3731	1.3510	1.3695	↓ 11	↓ 11	14/01/20	1.3540	1.3731	1.3510	1.3695	↓ 28	↓ 11			
14/01/27	1.3683	1.3714	1.3501	1.3501	↓ 12	↓ 12	14/01/27	1.3683	1.3714	1.3501	1.3501	↓ 29	↓ 12			
14/02/03	1.3489	1.3618	1.3481	1.3593	↓ 13	↓ 13	14/02/03	1.3489	1.3618	1.3481	1.3593	↓ 30	↓ 13			
14/02/10					↓ 14	第二MC	1	14/02/10					PC	1	第一MC	1

ユーロドル 一般的なPCカウント

アンバーサリー戦略におけるカウント

Date Open High Low Close

Date Open High Low Close

<19>

Max金融Reportは、執筆担当者独自の視点から金融商品进行分析し、情報提供を目的に作成されております。投資の最終判断は御自身の責任で行なうようお願い申し上げます。また、予告なしに内容を変更する場合がありますのでご確認ください。

お問い合わせは、マックスバリュー 047-300-5561 千葉県市川市曾谷 5-28-3 (<http://www.max-value.co.jp>) まで

季節性

2011 年は季節性に大きな異変が起こり前半に大幅下落したが、2012 年は正常に回帰し、前半はドル高、後半ユーロ高となった。

2013 年も正常な季節性に回帰し、1 月にピークアウトした後は基本的に下落し、7 月までレンジとなった後、上昇に転じた。

80 年以降に限っても、80 年は 1 月から 4 月まで、81 年は 3 月から 8 月まで、82 年は前年 10 月から 4 月まで、83 年も 1 月から 8 月までいずれもドルが力強い上昇を見せている。90 年代においても、91 年は 2 月安値、7 月高値であり 92 年は 1 月から 3 月まで上昇、95 年も 3 月から上昇をスタートしている。

一般的にいて、前年 10 月から 3 月まではドルの底値圏(ユーロは高値圏)となるケースが多く、逆に 7 月前後はドルのトップとなる季節性が観測される。実際、2012 年も 2 月末までドル安、その後 7 月第 4 週までは対ユーロでドル高が継続し、その後は緩やかなユーロ高だった。

7 月前後がドルトップ(ユーロボトム)となった年は以下の通りである。

81 年 8 月、83 年 8 月、87 年 8 月、88 年 8 月、89 年 6 月、90 年 6 月、91 年 7 月、93 年 7 月、95 年 9 月、96 年 5 月、97 年 8 月、2001 年 7 月、03 年 8 月、04 年 8 月、2010 年 7 月、2012 年 7 月、

2013 年 7 月(正確には 4 月だがほぼダブルボトムとみなしてよい)

80 年以降の 30 年において 17 回も 7 月前後が高値をつける時間帯となっている。これにダウンサイクルが強く、3 月前後に高値をつけたものが 80 年、86 年、90 年、92 年、94 年、98 年、12 年と 7 回観察されることから、前半に高値をつける傾向は 82%ということがいえる。

逆に夏場から冬にかけて伝統的にドルは弱い(ユーロは強い)傾向が見て取れる。年後半にドルがラリーしたのは 80 年、83 年、84 年、92 年、93 年、99 年、2000 年、2005 年と 8 回を数えるのみである。もっとも 2000 年は 10 月から大きくユーロが反騰しているのでドルが一方向的に上がった印象はないし、2005 年の下落は 2006 年の大反騰を招いている。

さて、2014 年についても基本的には季節性は有効と想定する。

すなわち第二 26 ヶ月サイクルの第二 9 ヶ月サイクルが 1 月前後にすでにピークアウトし、その後数ヶ月は下落する可能性が高いからである。あるいは第三 9 ヶ月サイクルが弱気であれば、さらに下落は深くなる。

アニバーサリー

ユーロ高値(ドル安値)

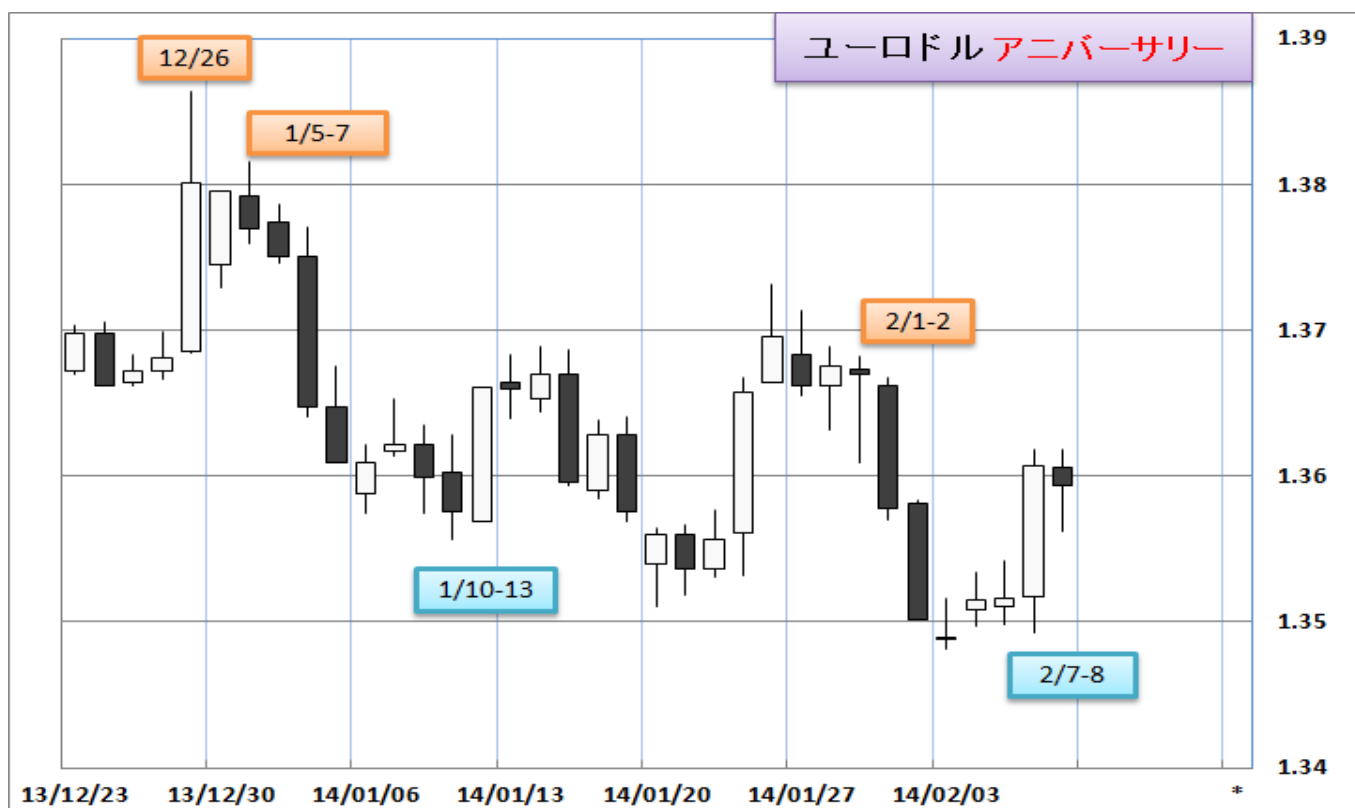
は2013年に強力だったアニバーサリー
◎は特に重要と思われるアニバーサリー

◎ 1月5-7日	◎ 1月10-13日	1月25-26日	
◎ 2月1-2日	2月11日	2月19日	2月23-24日
◎ 3月6-11日	◎ 3月17-19日		3月31日
	4月12日	4月21-22日	
◎ 5月1-11日	5月12-15日	5月21日	◎ 5月27日
◎ 6月3-8日	6月11日	6月16-21日	
7月4-5日	◎ 7月15日	7月19日	◎ 7月27-31日
◎ 8月1日	8月5-6日	8月12日	8月20-22日
◎ 8月29-9月2日		◎ 9月15-20日	
◎ 10月2-3日	10月8-9日	10月12-17日	10月23日
			◎ 10月25-27日
11月3日	11月10-12日		◎ 11月25-27日
◎ 12月2-4日	12月8日	12月11-14日	◎ 12月26日
	◎ 12月18日	◎ 12月26日	◎ 12月31日

ユーロ安値(ドル高値)

は2013年に強力だったアニバーサリー
◎は特に重要と思われるアニバーサリー

	◎ 1月10-13日	1月22-23日	◎ 1月31-2月2日
◎ 2月7-8日		2月14日	◎ 2月25-27日
3月2-5日	3月7日		3月20-29日
4月2-4日	4月7-8日	4月14-22日	4月28日
5月4-6日	5月17-19日	5月23日	
◎ 6月1日	◎ 6月6-7日	◎ 6月14-16日	
7月2-5日	◎ 7月9-12日	◎ 7月19日	◎ 7月24日
◎ 8月2-6日	◎ 8月10日	8月17-19日	8月24-27日
9月10日	9月14-17日	9月20日	
◎ 10月2-4日	◎ 10月13日	◎ 10月16-21日	◎ 10月26-27日
◎ 11月3-8日	◎ 11月13日		◎ 11月27-30日
12月2-4日	12月14日	12月22日	



結論

ユーロドルは 2001 年からスタートした 18 年サイクルの第三位相である 4.3 年サイクルが 2010 年 6 月からスタートしている。2014 年 2 月現在その 44 ヶ月目で、2つの 26 ヶ月サイクルから形成される可能性が高く、**その第二位相の 19 ヶ月目**である。

第二位相(17 または 26 カ月サイクル)は判断が難しいが、おそらく2つの 9 カ月サイクルか3つの 9 カ月サイクルで形成され、その第一位相が完了し、**第二位相の終了タイミングであるから、短い戻りが起こる可能性がある。**

もっとも、短い戻りが完了した後は 26 ヶ月サイクルのボトムに向けて厳しい下落が示現するはずである。ボトムの時間帯は 2014 年 9 月±4 ヶ月。

プライマリーサイクルは 21 週あるいは 35 週と想定され、すでに第三PCに突入している可能性が高く、その 14 週目に入る(2 月 10 日の週)。PCは 18 週前後までに完了するものと想定され、第二 9 ヶ月サイクルのボトムと合致するだろう。

今週から 3 月初旬までにはいったんボトムアウトし、その後短い戻りが起こるが、第三 9 ヶ月サイクルの戻りはせいぜい 3 ヶ月前後までのはずであり、最終的には 2014 年 9 月をターゲットとする 26 ヶ月サイクルボトムに向けて大幅下落を示現するだろう。

<22>